

平成29年度特定鳥獣保護管理検討会（第1回）

日時：平成29年11月8日（水）午後2時～

場所：愛知県本庁舎 3階 第4会議室

平成29年度第二種特定鳥獣管理（カモシカ）は、了承された。

（委員）

今回、初めて階層ベイズ法による推計を行っているが、階層ベイズ法が570頭（平成27年度）、区画法が1,874頭（平成27年度）と大きく異なる。

この理由は何か。

（事務局）

階層ベイズ法に用いた主なデータは、捕獲数である。今後、目撃情報、アンケート調査を入れて、推計の精度を上げていきたい。

（委員）

岡崎市と新城市で7頭の捕獲があったとのことであるが、その理由は何か。

（事務局）

錯誤、傷病による捕獲であり、適正に放獣したことを確認している。

（委員）

最近、里でカモシカを見るようになった。逆に、山間部でニホンジカの林業被害が出てきている。ニホンジカの移動がカモシカを里に追いやり、錯誤による捕獲が増えているのではないか。

（委員）

個体数調整を実施している区域はどのように選定しているか。また、その頭数についてはどのように設定しているか。

（事務局）

被害地及び被害の可能性の高い森林を剪定し、50～100haの団地を設定し、被害状況についてプロット調査を実施している。その上で、捕獲実績や被害の状況を踏まえ、加害個体数を推定の上、年間1～3頭で捕獲数を設定している。

（委員）

捕獲頭数及び被害状況はどうか。

（事務局）

階層ベイズ法による平成28年度の推定生息数は、平成26年度と比較して30頭余り増加している。また、被害状況についても、被害面積が56aから925aに、被害金額が611千円から2,118千円に増加している。

（委員）

管理目標を達成するために、今後どのように施策を進めていくのか。

（事務局）

忌避剤処理は効果が高かったが、木の生長に合わせて塗布する必要があることから費用対効果で考えるとあまり高くない。それに加え、防護柵、ヘキサチューブなどの対策を組み合わせて防除していきたい。